探討聽力學習的問題點 — 以單字實証研究為例 —

葉淑華

國立高雄第一科技大學 應用日語系

摘要

川口(1984)指出單字、文法等先備知識是阻礙聽力的主要因素之一。換言之，若不能正確分辨單字的意義，結果必然導致無法正確理解聽講的文章內容。

本研究為了進一步深入探討有效之評量方法的分析，特別以筆者所擔任之聽力課程的學生為實驗研究對象，實施聽講課程內容的單字評量測驗，並進行分析評量之結果，再針對聽力上的問題點提出個人之觀點。

首先，利用簡易的統計分析單字測驗評量的結果，可以歸納並發現單字誤答有幾個傾向；其次，根據認知理論，針對A、B班實施不同實證研究，研究結果得知「介入指導」對聽力學習指導有正面幫助。另外，在檢測個人差異變數時，察知單字熟知度較低的學生，其聽講能力也相對較弱。本研究結果可提供聽力教學及學習測驗評量研究時有意義的參考資料。

關鍵字：評價資料、認知比較、誤答提示、介入指導

聴解学習の問題点をめぐる — 語彙テスト実験を通して —

葉淑華

国立高雄第一科技大学 應用日語系

要 旨

川口（1984）は語彙、文法などの既習知識が聞き取れる音を制限していると述べている。それによると、語彙を正確に書き分けられないことは、当然のことながら聴解の内容を十分に理解できない原因につながる。

そこで今回は評価法を掘り下げて検討するために、明道管理学院の生徒を対象とした聴解の学習指導において、語彙の学習効果を測定し、授業改善への応用について探求した。エクセルによる資料分析からこれらの語彙誤答の傾向としては、いくつかの現象が観察された。さらに、認知理論に基づき、A・Bクラス分けに実験を行ってみた。個人差変数を検討したところ、聴解力の低い学習者にとっては、語彙の定着度がかなり低いなどの結果が得られた。この結果は聴解学習のテスト評価研究に意義を与えるものである。

キーワード：評価資料、認知比較、誤答指摘、介入指導